

令和7年度（秋入学） 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科
 博士後期課程 社会人特別入試 口述試験の概要

専攻名	口述試験の概要
バイオテクノロジー専攻	<p>修士課程あるいは社会人としての勤務の中で行ってきた研究の概要の説明に加えて、博士後期課程における研究計画の説明を求め、専門的な知識や研究遂行能力が十分であるか、標準修業年限内に博士号を取得できる見込みがあるか、指導教員と適切にコミュニケーションがとれているかなどを確認した。</p>
設計工学専攻	<p>(情報工学分野) 受験の動機、入学後の抱負などに関する質問の後、受験者が大学において身につけてきた学力・研究力を判定するために、これまでの研究、および、これからの研究計画に関するプレゼンテーションを行い、さらに質疑を行った。</p> <p>(機械物理学分野・機械設計学分野) ※出願者なし</p>
デザイン学専攻	<p>受験者のこれまでの研究概要および活動、本学博士後期進学後の研究目標、内容、研究計画、将来の構想等について詳細に説明させ、質疑を行った。また英語による質疑も行った。</p>
建築学専攻	<p>志望動機と希望指導教員を聞いた上で、研究計画書に基づいて博士後期課程における研究計画について10分程度の説明を求めた。 質疑では主に研究計画におけるテーマ、方法、先行研究との関係、現段階での研究の進捗状況を問い、研究に対する理解度や研究の実現可能性を確認した。また、博士後期課程修了後に希望する進路についても質問を行った。</p>
先端ファイブロ科学専攻	<p>自身の研究内容や構想を、根拠に基づいて客観的かつ簡潔にまとめ、他者に理解できるように表現することは、学会発表や研究交流の場、そして博士論文の執筆において求められる能力であり、修士課程で身につけておくべき重要な素養である。口述試験では、修士課程で実施した研究概要や研究遂行に要求される専門的学力を確認した。また、博士課程での研究計画、学術的新規性、遂行可能性、研究の波及効果や将来性・発展性について評価した。これらの学術的なプレゼンテーション能力や質疑応答能力を論拠に基づいて適切に説明・表現できるのか否かを評価した。</p>